

(平成 23 年 10 月試験研究業務月報)

試験研究課題：鶏のストレス低減飼養管理技術の開発

研 究

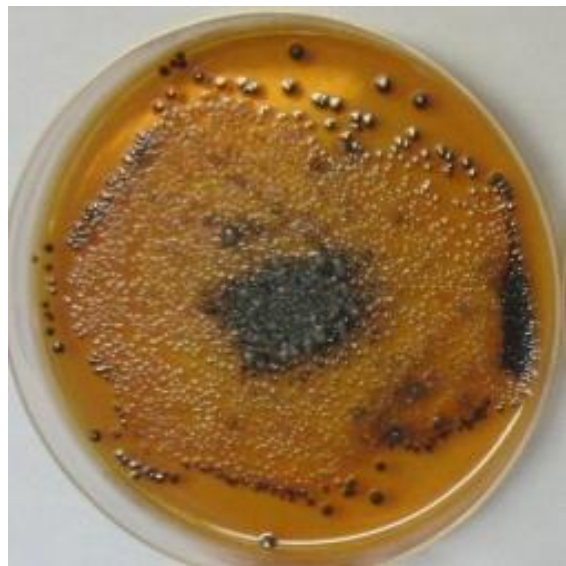
## サルモネラ感染を抑制する機能性飼料の開発

畜産センターでは、安全な畜産物を消費者に届けるため、鶏に投与することで、鶏卵・鶏肉がサルモネラ等の食中毒細菌に汚染されない機能を持った飼料の開発を進めています。

今回、開発した飼料を継続的に給与した採卵鶏の糞便からは、サルモネラは検出されず、鶏への感染を抑制する効果が確認できました。今後は、細菌感染が起こりやすいストレスが強くかかる環境のもとで検証し、実用化に向けて研究を進めます。



機能性飼料給与区  
(サルモネラ未検出)



機能性飼料未給与区  
(黒色部分がサルモネラ)

## 粳米のサイレージ化技術で飼料米の牛への利用を拡大

ータスクチーム活動の新たな取組に向けてー

畜産センターでは、飼料米の牛への利用拡大を図るため、丹後地域の農業法人、農業改良普及センターと連携し、乳用牛での給与実証を進めています。

飼料米を牛に給与するには、牛が消化しやすいように粉砕する必要があります。今回、粳米の粉砕と粉砕米の保存性を高めるためにサイレージ調整をしました。

給与実証試験では、乳牛の採食性や泌乳への影響などについて調査します。



未乾燥飼料米を破砕機で1～2ミリに粉砕



粉砕した粳米をフレコンバッグに保存しサイレージ化

## **肥育牛飼養管理技術指導が充実します**

－高速液体クロマトグラフィーの導入－

畜産センターでは、高速液体クロマトグラフィーを導入しました。新しいカラムによる移動相の変更と新しいシステムにより、測定速度が約 2 倍になり、測定時間は 1 検体あたり約 5 分となりました。肥育牛の飼養管理状況確認のために行っている毎月 100 検体以上の血中ビタミン A 濃度測定の結果がより早く農家に提供できるようになり、ビタミン A コントロール指導が迅速に行えます。



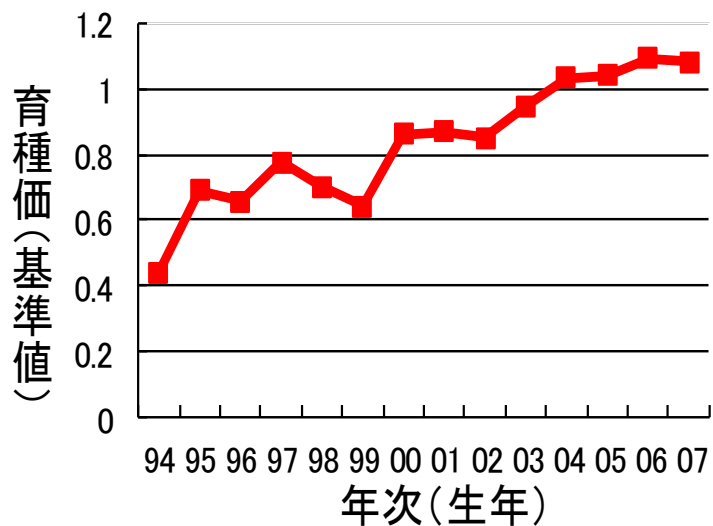
新しく導入した高速液体クロマトグラフィー

## 和牛産肉能力育種価の解析

畜産センターでは、和牛の改良状況を把握するため、肥育牛の枝肉データを収集し産肉能力育種価の解析を行っており、今回、15,616 頭のデータから、府内の繁殖雌牛 522 頭の育種価が判明しました。生年別のデータを見ると、枝肉重量、脂肪交雑の育種価は、着実に向上していることが解ります。この育種価情報は、さらに改良を進めるため、育種価の低い繁殖雌牛の更新や交配する種雄牛の選定に活用してもらえよう、関係機関・団体・農家に提供しています。



京都生まれの牛の枝肉  
(京都肉牛枝肉共進会から)



京都府内雌牛の育種価(脂肪交雑)の生年別推移

## サポートカウの最終収牧

京丹波町の耕作放棄地に放牧していたサポートカウ 3 頭を収牧し、今年度のサポートカウ事業は無事に終了しました。放牧場の野草を食べ尽くした牛たちは、分娩を控えていることもあって、大きなお腹になって畜主の元に帰りました。畜産センターでは、地域の耕作放棄地対策や獣害対策と畜産農家の管理作業軽減の橋渡しとなるよう、来年も本事業を進めていきます。



放牧場から牛を引き出します



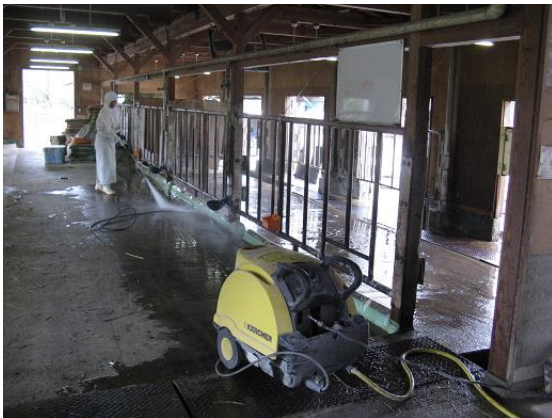
畜主の元に帰りました

畜産センター

## ヨーネ病の防疫対策を継続実施中

— 第 1 回目の同居牛検査で全頭の陰性を確認 —

畜産センターでは、6 月のヨーネ病発生以降、場内の消石灰散布、牛舎入口での車輛や長靴の消毒、感染リスクの高い子牛の対応(隔離飼養)など防疫対策を実施中です。今月 12 日の家畜保健衛生所によるヨーネ病検査で、52 頭全てが陰性でした。来年 7 月の清浄農場復帰に向け、継続的に防疫対策を実施します。



牛舎及び牛舎周辺の消毒



ヨーネ病発生以降に誕生した子牛は豚舎を改修した育成牛舎で隔離飼養中

畜産センター

## 碓高原育ちの乳牛が農家にもどりました

－乳用育成牛譲渡会を開催－

碓高原牧場では、府内の酪農家から乳用子牛を導入し、受胎まで飼養し再び酪農家にもどす事業を行っています。昨年の春に導入した子牛は、放牧場で足腰を鍛え、牧草をしっかり食べて逞しく育ち、24 頭のうち 20 頭は和牛受精卵で受胎しています。譲渡した乳牛は、農家で出産後、搾乳による所得の向上と和牛子牛セリ市出荷による京都産和牛の増頭に貢献します。



トラックに乗ってそれぞれの農家に帰ります

畜産センター  
碓高原牧場

## 小学校で「獣医師の仕事」を講義

京丹後市立野間小学校 2・3 年生の児童 3 名を対象に「獣医師の仕事」と題して当场職員が講義を行いました。児童からは、牧場での獣医師の仕事や飼育している動物について活発な質問がありました。後日、「子牛がたくさん生まれる牧場職員の仕事の大変さが良くわかりました」との感想文が届きました。



児童からの質問に答える職員

畜産センター  
碓高原牧場



## 消防訓練を実施

碓高原牧場では火災等緊急時において、地理的条件から緊急車両の到着が遅れることが想定されるため、発生時の迅速な対応は自主防災上、最も重要です。

そこで、火災が発生したことを想定し、消防署への通報や避難訓練を行うとともに消防ポンプによる放水訓練を行いました。放水訓練では、消防ポンプの引き出し、水利の確認、ホースや筒先の取り扱い、ポンプの始動、放水までの手順を確認しながら訓練にあたりました。



消防ポンプによる放水訓練

畜産センター  
碓高原牧場